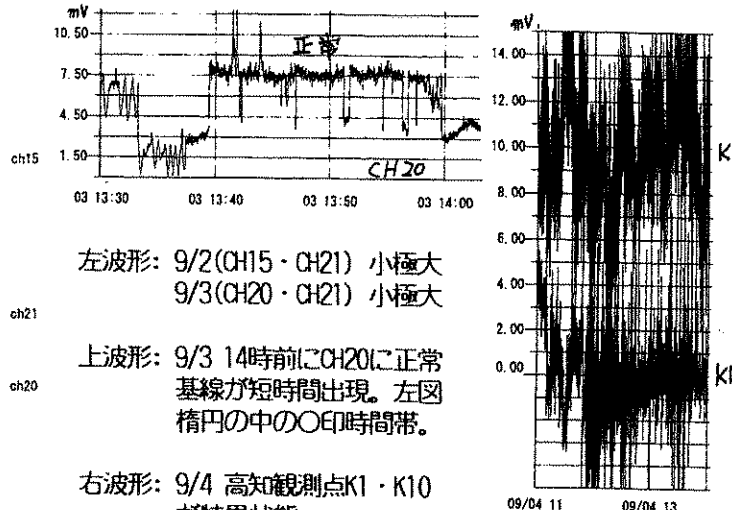
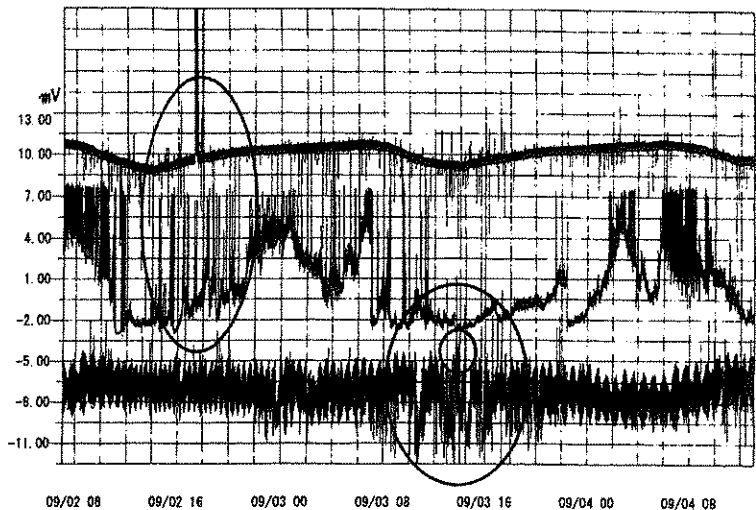


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 現況報告 次々と極大出現 9/6±又は9/21±の可能性有



左波形: 9/2(CH15・CH21) 小極大
9/3(CH20・CH21) 小極大
上波形: 9/3 14時前にCH20に正常
基線が短時間出現。左図
楕円の中の○印時間帯。
右波形: 9/4 高知観測点K1・K10
が特異状態

長期継続特殊前兆No.1778は第17ステージ前兆群の動向から09月03日±3 ~05日±3 時期が示されていると認識しています。

ところが、右図に示したとおり、次々と極大が出現している現況です。

上波形のとおり、CH21が糸状態継続となった中心時刻付近(9/2 18h頃)にCH15に特異状態が短時間出現。

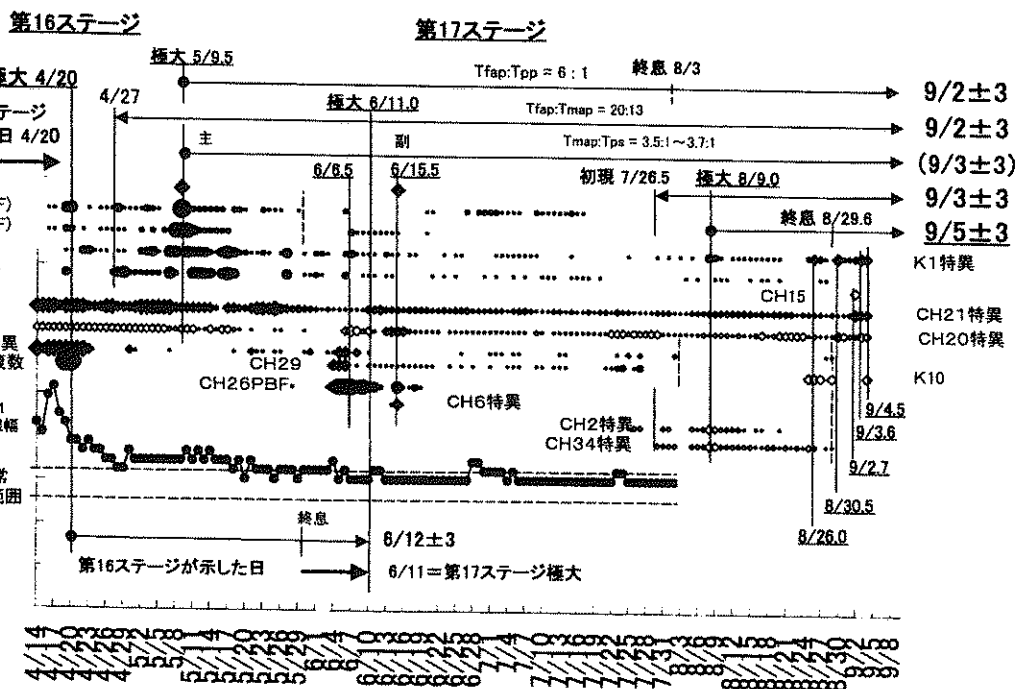
翌 9/3には再びCH21が糸状態継続となり、中心時刻付近の14h 前にCH20特異が大きくなりました。そのCH20の特異変動が大きい時間帯の中心に右上のとおり、CH20に短時間ですが、正常静穏基線が出現。

さらに本日のCH21が糸状態となり、右上波形のとおり、高知観測点のK1・K10 に特異状態が出現しています。

(高知観測点不調で欠測時間帯があります) これらが小極大である場合は、現状推定されている 9/6±2 時期発生の場合は、発生まで前兆は消えませんが、

しかし、別の見方として、K1・K10 に特異状態が出現した8/25.5を初現とし、9/4±が極大である可能性もあります。第17ステージが示した時期である現在に極大が出現の可能性です。8/25.5を初現と考えた場合には、9/21±が示されることとなります。

8/30.5極大(CH20)に対し、9/3.6 に一時的にでも正常基線となったCH20を静穏化した場合は 9/5±が示唆されます。誤差を含め 9/6±1 発生となるが、9/7 段階で前兆継続の場合は9/21±の可能性も示唆されることとなります。



- ◆推定領域: 右図太線領域内付近 (やや火山帯に近い領域の可能性)
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
※群発的地震活動の可能性有
- ◆推定時期: 9月6日±1
※但し9月7日時点で前兆継続の場合 ⇨ 9月21日±3 等の可能性有。その場合は続報で修正

- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻
- ◇推定発生時刻: AM9:00±1 (or PM6:00±3)

